

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<p><研究課題名> 転移性乳癌の予後と Eribulin (エリブリン)による新規転移病変の抑制効果の関連性について</p>
<p><研究機関・研究責任者名> 日本大学医学部附属板橋病院 乳腺内分泌科 (研究責任者)原 由起子</p>
<p><研究期間> 承認日 ~ 西暦 2021年 3月 31日</p>
<p><研究の目的と意義> 転移性乳癌に対して使用されるエリブリンは、新しい転移巣を作ることを避ける効果があるといわれており、その効果が、転移性乳癌の予後を改善するかどうかを調べるために本研究をおこないます。</p>
<p><利用する試料・情報の項目> ①研究対象者基本情報:年齢、性別、診断名、転移再発年月日、エリブリン投与開始年月日、エリブリン投与終了年月日、死亡年月日、病理組織学的検査結果 ②エリブリン投与量、エリブリン投与スケジュール、エリブリン投与時の副作用(Common Terminology Criteria for Adverse Events(CTCAE)に基づく) ③エリブリン投与後の転移巣を評価した画像検査</p>
<p><対象となる患者さん> 西暦 2016年 1月 1日~西暦 2019年 12月 31日の期間に当院乳腺内分泌外科でエリブリン(ハラヴェン)の治療を開始された方</p>
<p><研究の方法> 西暦 2016年 1月 1日~西暦 2019年 12月 31日の期間に当院乳腺内分泌外科で転移性乳癌に対して、エリブリンの治療を行った方を対象とします。病勢が進行したためにエリブリンが投与終了となった場合の原因を検討し、その後の予後について比較検討します。</p>
<p><お問い合わせ窓口> 日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1) 乳腺内分泌外科 氏名:原 由起子 電話:03-3972-8111 内線:(医局)2450 (PHS)8533</p>